

ゼミ生によるゼミ紹介作成フォーマット

中庭ゼミ

ゼミテーマ：地域観光戦略、コミュニティデザイン

《先生の紹介》

氏名：中庭 光彦

プロフィール：1962年生まれ。東京都出身。専門は地域政策分析・マネジメント、コミュニティデザイン、観光地経営論。都市や郊外、中山間地の開発政策史研究を続け、人口減少期における地域政策の手法研究を進めている。並行して1998年よりミツカン水の文化センターの活動にかかわり、水文化の比較研究も行っている。

先生の性格：あまり見えないが、本質は楽しい人。優しい。可愛い。結構ノリのいいタイプ。普段は統率力があり、人を説得する能力に長けた人に見える。人を巻き込み、利用するのがうまい。

先生の口癖：「(そう) だろ？」とよく言っている気がする。強い説得力につながっている。

ゼミの活動内容

先生の専門である地域政策分析、地域観光経営論、コミュニティデザインなどを利用した、特定の地域の戦略研究。今年度(27年度)行っているのは「インバウンド観光客を対象にした野沢温泉の観光地戦略研究計画書」の作成。完成次第、野沢温泉村へ本計画を提案しに行く。

今年度調査対象となった、「野沢温泉」という長野県の北部に位置するこの村は、近年オーストラリアやシンガポールからのインバウンド観光客でにぎわっている。どうしても、雪質の良いスキー場や、日本的文化の漂う街並みが彼らには人気らしい。しかし、一見問題なさそうに見えるこの村には、様々な悩みを抱える人々がいた。インターネットではわからない問題点や地域特有の悩みを、中庭先生の地域政策の経験と知識に加え、僕たち生徒の新鮮でフレキシブルな発想と行動力を組み合わせ、問題を解決に導いていく。

アピールポイント

今年度からゼミ活動は生徒主体となったため、僕ら生徒はかなり自由に動いている。皆でアイデアを出し合い、直感的に行動する。やればやるほど前に進む。その分、何もしなければ全く何も変わらない。

いつまでもするする進むわけではない。どうしても突っかかってしまう時はある。こんな時、地域系の本を読むのも事例集に目を通すのもいいのだが、やはり中庭先生のアドバイスが最も的確で為になっている。経験に基づく情報は質が違う。何より説得力がある(笑)。

中庭先生が開講しているこのゼミの志は、現代の日本に存在する人口減少社会の問題を解決できるような、地域の魅力づくりや観光まちづくりの企画提案を行える人材の養成である。私たちはコミュニティデザインという方法で問題解決に挑んでいるため、この活動で培われる能力は、将来地域系の職に就こうと考える者には適しており、社会で間違いなく活躍できる能力だ。地域政策、観光地経営論を専攻したい人には、このゼミに入ることを強く推奨する。